



Mutual prosperity to both nature and mankind through creativity innovation and sensitivity
www.namics.co.jp

2023 CSRレポート

Corporate Social Responsibility Report



A colorful, abstract geometric graphic in shades of teal, green, orange, and pink, resembling a stylized leaf or a modern architectural element, serves as a background for the report title.

2023

CSRレポート

Corporate Social Responsibility Report

目次 Contents

-
1. 編集方針
 2. 企業理念・経営基本方針・行動指針
 3. CSR基本方針
 4. トップメッセージ
 5. 会社概要・グループ概要
-

マネジメント

-
6. コーポレートガバナンス
 7. CSR推進体制
 8. リスク管理
-

ナミックスグループのCSR重要課題

-
9. ナミックスグループのCSR重要課題の特定
-

CSR重要課題への取り組み

-
10. 働く人の安全確保
 11. 持続可能を目指す環境負荷低減への取り組み
 12. お客様に安心してお選びいただけるバリューチェーンづくり
 13. ダイバーシティ・サステナビリティの推進
 14. 社会資本への投資
-

1. 編集方針

本レポートについて

ナミックスグループでは、当グループが取り組むCSR活動につきまして、広く皆さまからご理解いただき、対話促進のツールとしてご活用いただくため、国際的な報告ガイドラインであるGlobal Reporting Initiativeの「The GRI Sustainability Reporting Standards (GRI スタANDARD)」を参照し、CSRレポートを本年も発行することといたしました。

報告期間

2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）

対象範囲

ナミックス株式会社及び国内外の全事業所

加入団体

一般社団法人 電子情報技術産業協会

一般社団法人 日本電子回路工業会

新潟商工会議所

発行履歴

初 版 2016年 12月
第2版 2017年 9月
第3版 2018年 9月
第4版 2019年 9月
第5版 2020年 9月
第6版 2021年 9月
第7版 2022年 9月
第8版 2023年 9月

次回発行予定

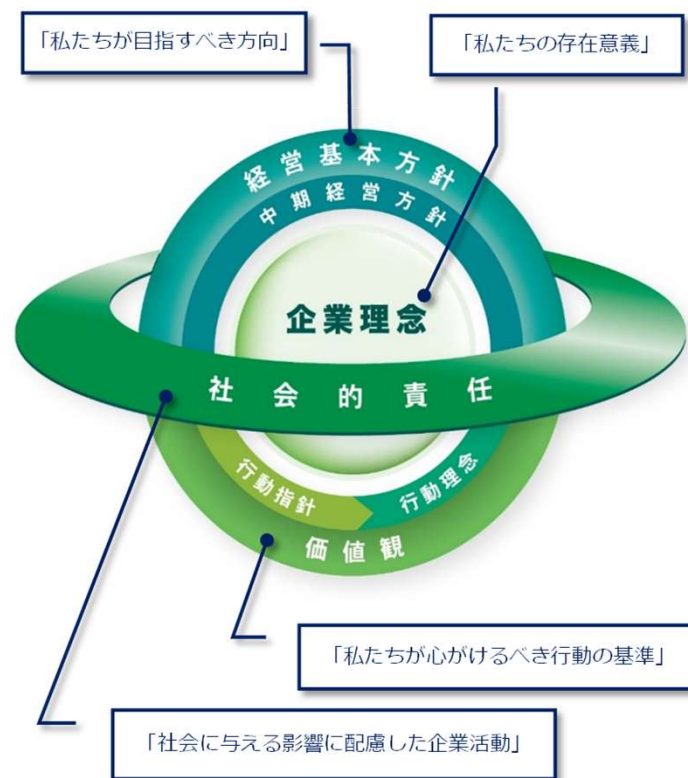
2024年 9月

参考ガイドライン

GRI スタANDARD 2021改訂版

2. 企業理念・経営基本方針・行動指針

NAMICSの「経営のベクトル図」(企業理念体系)

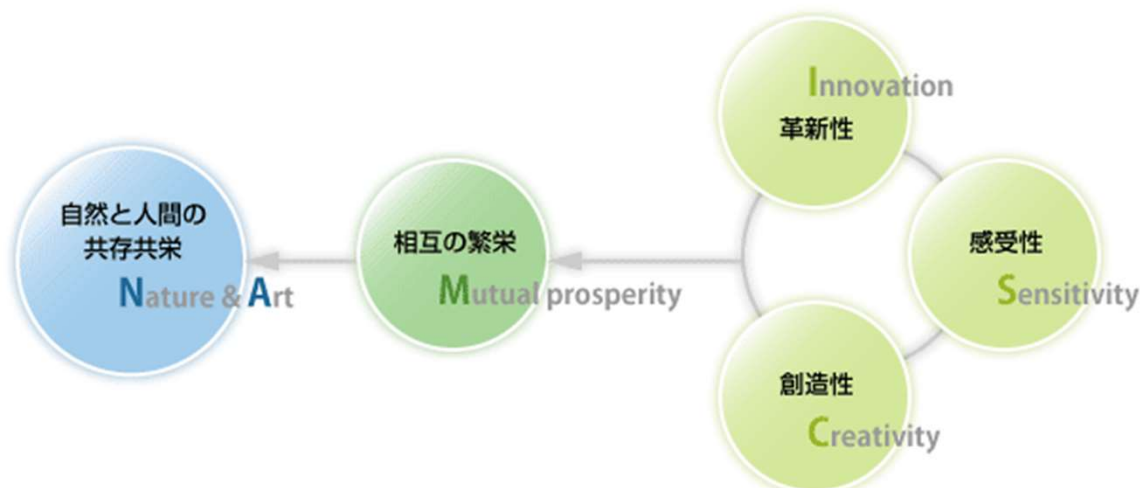


企業理念 — 私たちの存在意義 —

『創造と革新により、すべての人の幸福と自然の繁栄を実現する』

私たちは相互繁栄こそが経営の基本であり、企業としての存在目的でもあると考えます。その最終目標は自然と人間の共存、そして共栄です。

これらを実現するための企業姿勢として感受性、革新性、創造性が不可欠であるとの思いが、「NAMICS」の社名に込められています。



3. CSR基本方針

私たち一人ひとりが社会的責任意識の高い市民として行動することは、当社が健全で継続的に発展するプロセスとして重要です。

私たちは徹底的な環境保全やグローバルな供給体制、企業活動全般のコンプライアンス、社会的倫理等に適合した行動など、あらゆる企業活動の場面においてCSRを重視すると共に、継続的に見直し、レベルアップに努めていきます。

事業を通じた社会貢献

- 社会的に有為な製品・サービスを、品質・安全・環境負荷に十分配慮して安定的に提供する
- 事業活動の展開は、国際社会、地域社会の文化や慣習を尊重し、その発展に貢献する

コンプライアンス

- 関係法令、社内規定を遵守した企業行動を徹底する
- 公正・自由な競争・取引を行い、政治・行政・市民および諸団体との健全な関係を維持する
- 企業情報の適切な開示による透明性と個人・顧客情報の適正な管理を徹底する

人権の尊重

- 全ての人の人権を尊重し、人権・性別による差別や児童労働・強制労働を含む個人尊厳を損なう行為を禁止する
- 従業員の資質が最大限に発揮できる、安全且つ衛生的な職場作りを推進する



経営基本方針 — 私たちが目指すべき方向 —

Create value for the future ～ 「オンリーワン」 かつ 「ナンバーワン」 企業へ ～

- 発想力と技術力で未来の可能性をつくり出す企業へ
- 変化に向き合い、社会・市場に信頼される企業へ
- 仕事に誇りを持ち、真の幸せと生き甲斐が持てる企業へ

ナミックスは、経営基本方針「Create value for the future」のもと、未来へ繋ぐ新しい価値創造を通じて、「オンリーワン」かつ「ナンバーワン」企業の実現を目指します。

価値観（NAMICS WAY） — 私たちが心がけるべき行動の基準 —

行動理念：『自立・自動・自助』

「自分の人生を生きているのは自分自身である」ことを自覚し、納得のいく人生を送ろう

行動指針：『挑戦』 好奇心を持ち、柔軟な発想力で挑戦し続けよう

『成長』 自らが変革を促し、目的を実現するために成長しよう

『尊重』 コミュニケーションを高め、お互いに尊重し合える関係性を築こう

私たち一人ひとりの日々の行動、判断基準となる共有の価値観（NAMICS WAY）、それが「行動理念」「行動指針」です。自らの人生を充実したものにするため、個人・集団としての判断のよりどころとして、自らが理解して、自らが納得した上で行動へ繋ぐことを重視し、主体的な思考とコミュニケーションを通じた行動に努めます。

社会的責任（CSR） — 社会に与える影響に配慮した企業活動 —

『社会的責任の遵守』

事業活動を通じて社会の発展に貢献していくことが企業の社会的責任の中核です。IoTに代表される技術革新と生活や産業のあり方は、時代背景の中で変化しながら、常により高いレベルが求められています。技術の進化や創造に不可欠な製品・サービスを提供し続けるために、短期・中長期バランスのとれた経営を進めていきます。

4. トップメッセージ

ナミックスは、1946年の創業から変革を経てエレクトロケミカル材料分野に特化し、絶縁・導電材料の開発・生産に注力して参りました。国内外のお客さまからのきめ細かなご要望に応えるべく製品の研究・開発に努めた結果、現在では売上高の海外比率は約8割、半導体向け液状封止材の分野では世界シェアの約4割を占めております。

旧社名の「北陸塗料」から現社名である「NAMICS」への変更は、創業50周年の1996年でしたが、そこには自然と人間の共存共栄および相互の繁栄と、それを実現するための企業姿勢として感受性、革新性、創造性が不可欠であるとの思いが込められています。「自然と人間の共存共栄」の精神は世界規模で取り組みが進む「SDGs」つまり「持続可能な社会の実現」に通じるものです。

また、当社では、組織の基本目的を示す「企業理念」、企業体質や長期的に目指す姿を示す「経営基本方針」、社員一人ひとりの行動基準となる「価値観（NAMICS WAY）」を「経営のベクトル」の重要な柱として位置づけ、加えて、企業活動を通じた社会貢献である「企業の社会的責任（CSR）」も踏まえ、健全な経営と持続的な事業運営に取り組んでいます。

持続可能な社会の実現のためには、環境問題、人権問題など解決すべき課題が世界中に山積しています。当社では、事業を通じた社会貢献活動に加え、エレクトロニクス産業とサプライチェーンにおける労働者に対する人道的配慮や環境負荷に対する企業の責任を重視する世界的な基準である「RBA行動規範」に準拠した事業活動に取り組んで参りました。

今やスマートフォンやパソコンをはじめとする電子機器は、日常生活や社会活動に欠かすことができないものとなり、自動車はEVや自動運転の普及により新しい時代を迎えています。また、各種のセンサーは、交通システムや医療、防災、防犯、ロボットなどさまざまな装置に搭載・活用されています。当社の製品は、こうした装置のセンサーを含む電子部品に幅広く応用され、安全で安心な暮らしの実現、省資源・省エネルギーなど環境問題の解決にも役立っています。



様々な場面で使われる当社の製品ではありますが、これは創業以来培ってきた材料技術に磨きをかけ、お客さまから常に新たなニーズが生まれ続け、当社もそれに応えるべく、企画・提案し、新製品を世界に送り続けているからにほかなりません。また、産学官連携による共同研究を推進し、全国のさまざまな大学あるいは公的機関と共に研究・開発に取り組み、数々の実績を上げています。

重要課題への取り組みについては、当社では、世界へ向けた製品の安定供給を大きな課題と捉え、生産拠点の分散化だけでなく、事業継続マネジメントの強化をはかるため「事業継続計画（BCP）規程」を定めています。自然災害や感染症の発生・拡大など緊急事態発生時、お客さまへの継続的な製品供給を第一に、業務の早期再開および経営資源の被害軽減、復旧対策等の対応策を計画的に実施することを目的としています。

また、環境負荷軽減の取り組みとして、環境マネジメントシステムを構築し、継続的な改善を通して社会的責務を果たしています。具体的には、環境に配慮した社屋の建設、社有車のEV化・ハイブリッド化、環境負荷の小さい調達品の選定、廃棄物発生抑制とリサイクルの推進など環境保全活動を経営の最重要課題の一つとして位置づけ、持続可能な社会の実現に貢献できるよう努めています。

当社事業を担う人財の育成については、「良い会社の実現と従業員の豊かな人生づくり」を基本方針とし、社員のエンゲージメントを醸成する組織の開発や組織風土の構築に重点を置き取り組んでいます。その他にも、職位等に応じた階層別研修や、専門知識・技術の習得を目的とした部門別研修、グローバル人財養成のための国際化プログラムなど、従業員に多様な成長の機会と環境を提供しています。

先述のとおり、当社は売り上げの約8割を海外が占める企業ではありますが、地域社会と共に持続的な成長が可能となるような取り組みを進めております。社員による地域のボランティア活動をはじめ、青少年育成のための文化・教育活動への後援、地域スポーツ振興のための協賛、当社が運営する事業内保育園で社員以外のお子さまの受け入れなど、さまざまな活動を通じて地域社会への貢献を積極的に推進しています。

結びに、ナミックスは今後も継続的な事業活動を通じ、地域社会との共存共栄を図り、創業の地である新潟をはじめ各拠点のある地域においても、みなさまからご評価いただけるような活動に邁進していく所存です。

2023年9月

ナミックス株式会社

代表取締役社長 **小田嶋 壽信**

5. 会社概要・グループ概要

会社概要



会社名 ナミックス株式会社 (NAMICS CORPORATION)

本社所在地 〒950-3131 新潟県新潟市北区濁川3993番地

設立 1947年（昭和22年）2月

資本金 8,000万円

代表者 代表取締役社長 小田嶋 壽信

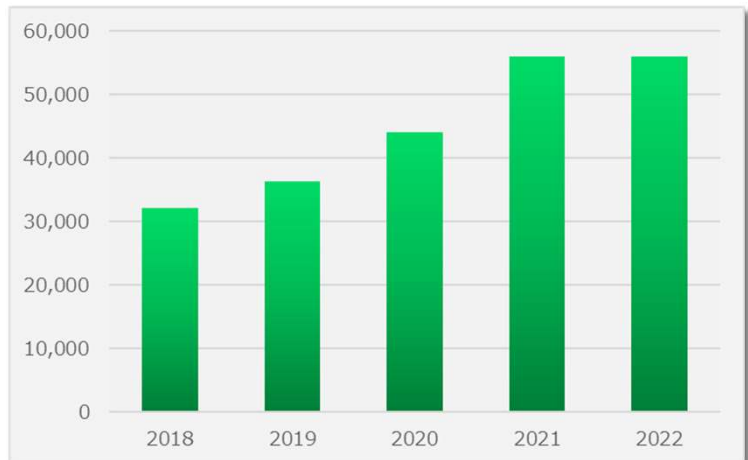
事業内容 エレクトロケミカル材料の研究・開発、製造、販売

売上高 560億円（2022年度実績）

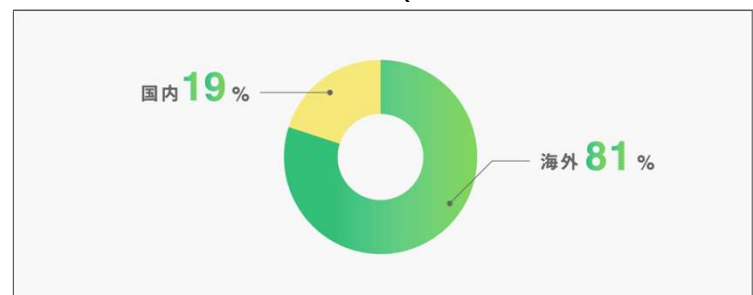
従業員数 710名（2022年度末現在）

研究開発費 6%（2022年度実績）

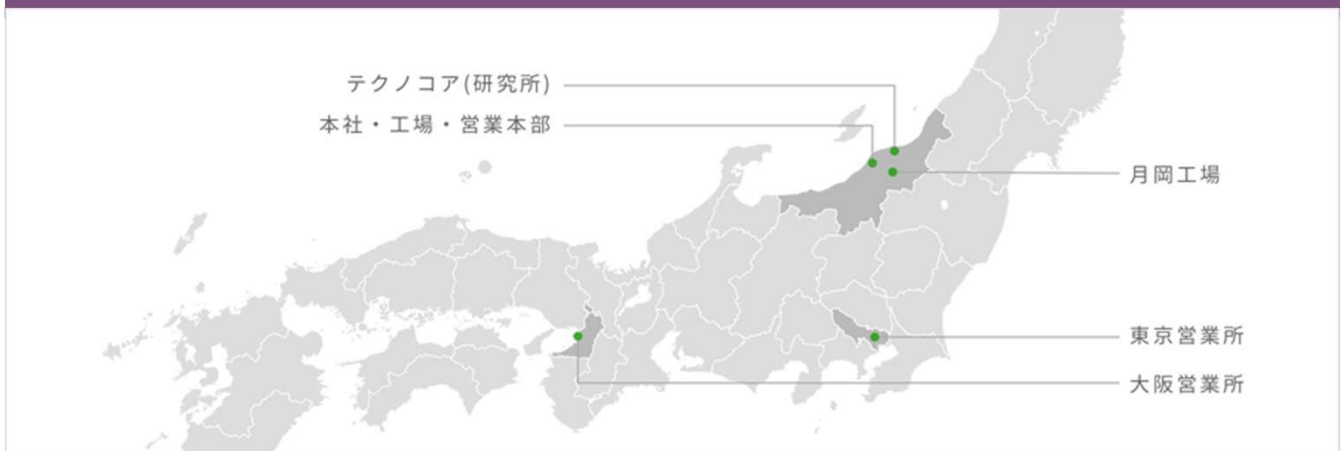
売上高推移



売上国内外比率(2022年度)



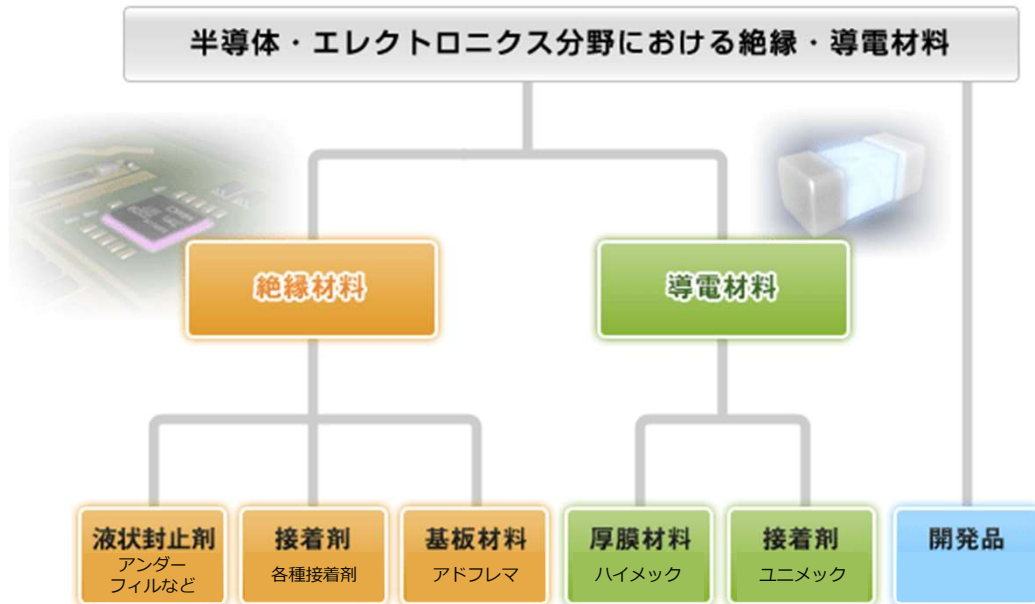
国内拠点



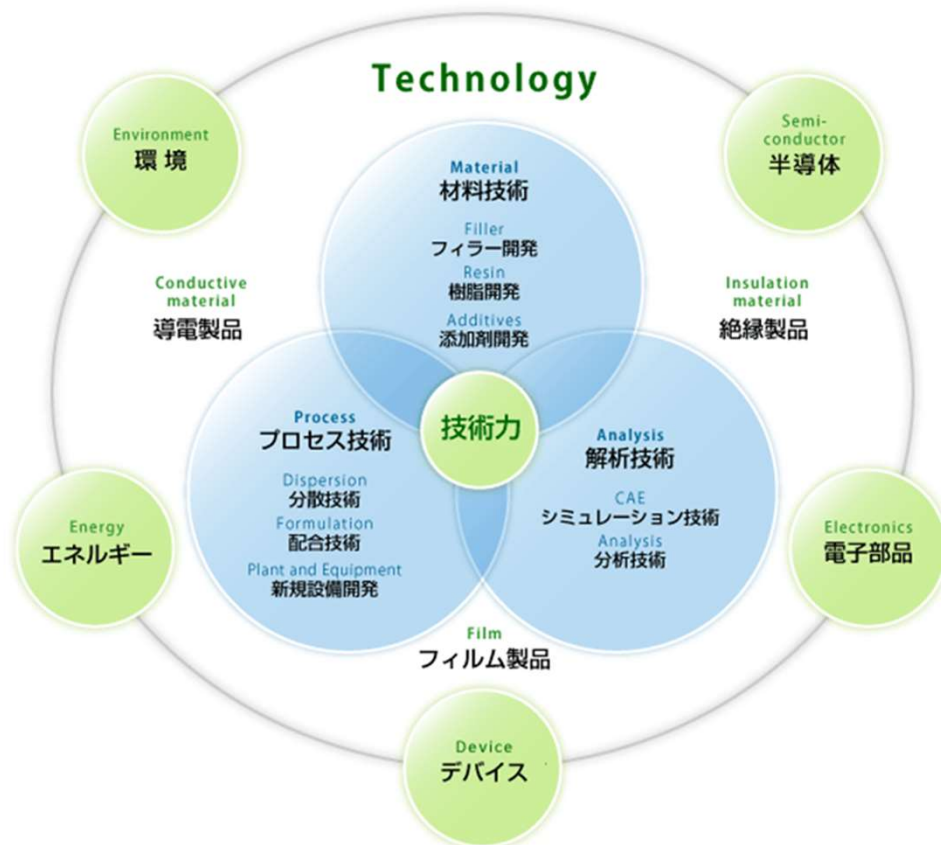
海外拠点



当社の製品分野



当社の技術



ナミックスでは、社会的に有為な製品・サービスを、品質・安全・環境負荷に十分配慮して安定的な提供を行っており、事業活動の展開として、国際社会、地域社会の文化や慣習を尊重し、その発展に貢献できるよう推進しています。



当社は、環境に有害である鉛を用いない製品、廃棄物を少なくするロングライフ製品、有害物質を用いないR o H S対応製品等、環境に配慮した製品開発を推進しています。

例えば、太陽電池パネルにおいては、より低コストで高い変換効率の実現に向け、太陽光発電に使用されるセルの太陽電池用電極材の開発に力を注いでいます。

また、製造プロセスは、製品の原材料受け入れから製品の出荷まで最新システムによって厳しく管理しています。これにより、品質特性の変動が極めて少ない、信頼性の高い製品を安定的に提供します。

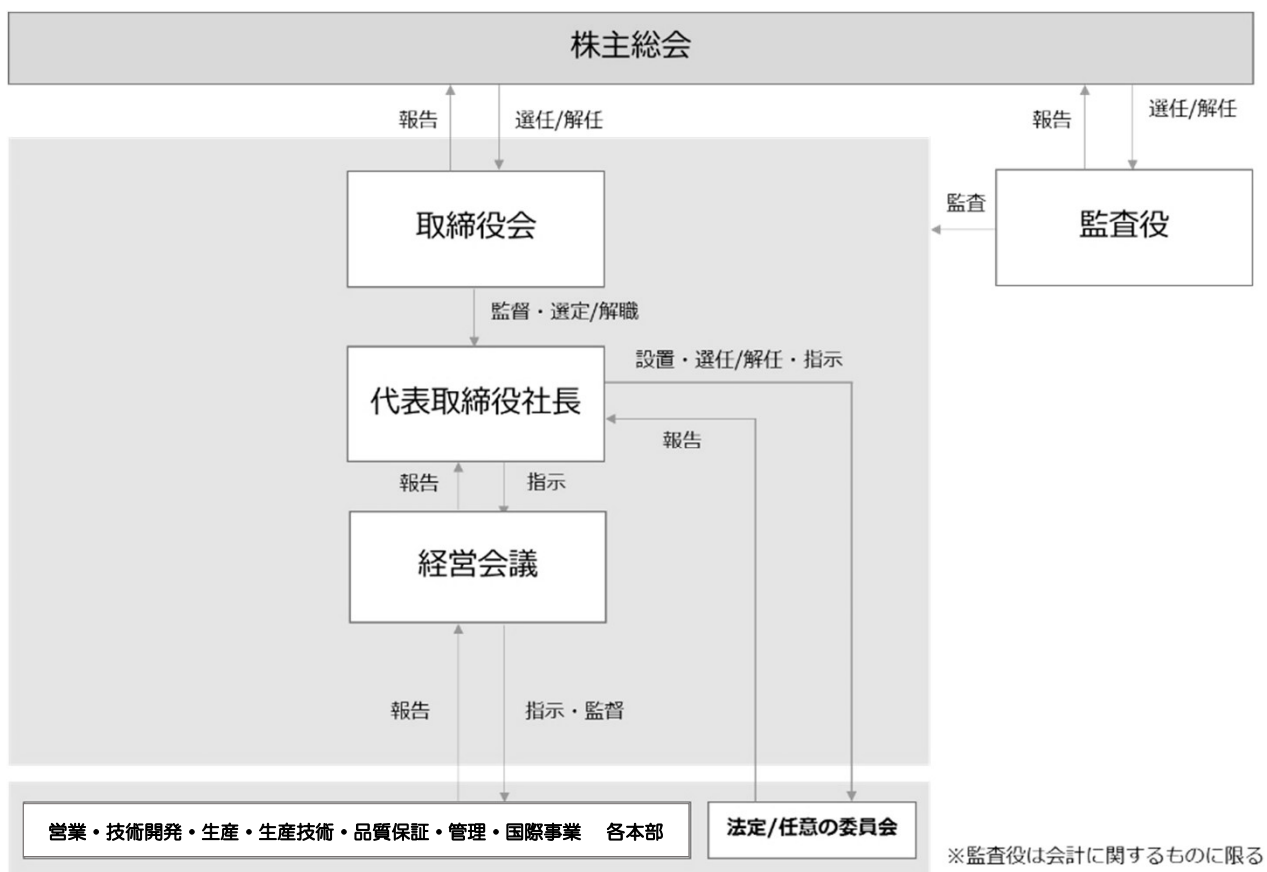
さらに、当社は、材料（絶縁・導電）技術、プロセス（配合・分散）技術、評価解析（材料・構造解析）技術をコア技術に、最新の設備と機器を揃えた研究開発施設において新たな技術開発に取り組み、安全で環境負荷の少ない製品開発を行っています。

環境保全やグローバルな供給体制作りを推進して行く中、様々な環境変化に対応する上で災害時などの緊急時においても安定した製品供給を行うため、海外の生産拠点を拡充しています。新工場を立ち上げる際には、より高効率生産ができるような設計を導入すると同時に、地域社会の文化や慣習を尊重、共存し、社会の発展に寄与できるように事業活動を進めて参ります。

6. コーポレートガバナンス

取締役会・経営会議

全社に関わる重要案件を審議し決定する機関として取締役会と経営会議があり、それぞれ原則として月1回以上開催しています。取締役会では会社の基本方針の決定や 会社法、定款などで定められた重要な業務執行について審議し決定を行っています。経営会議では各部門・会社全体の課題を審議し決定しています。



海外子会社の運営

本社による海外拠点の統括

海外に販売会社を設立したことを契機に、2006年より年1回、本社に海外子会社の責任者を招集してインターナショナルミーティングを開催しております。

インターナショナルミーティングは、次年度が始まる直前の3月末に行い、会社方針の概要、営業本部方針、海外子会社の計画の発表を行い、活動を見える化しております。

また、2014年度からは、海外販売会社（7拠点）と毎月のリモート会議や定例のインターナショナルミーティングを開き、

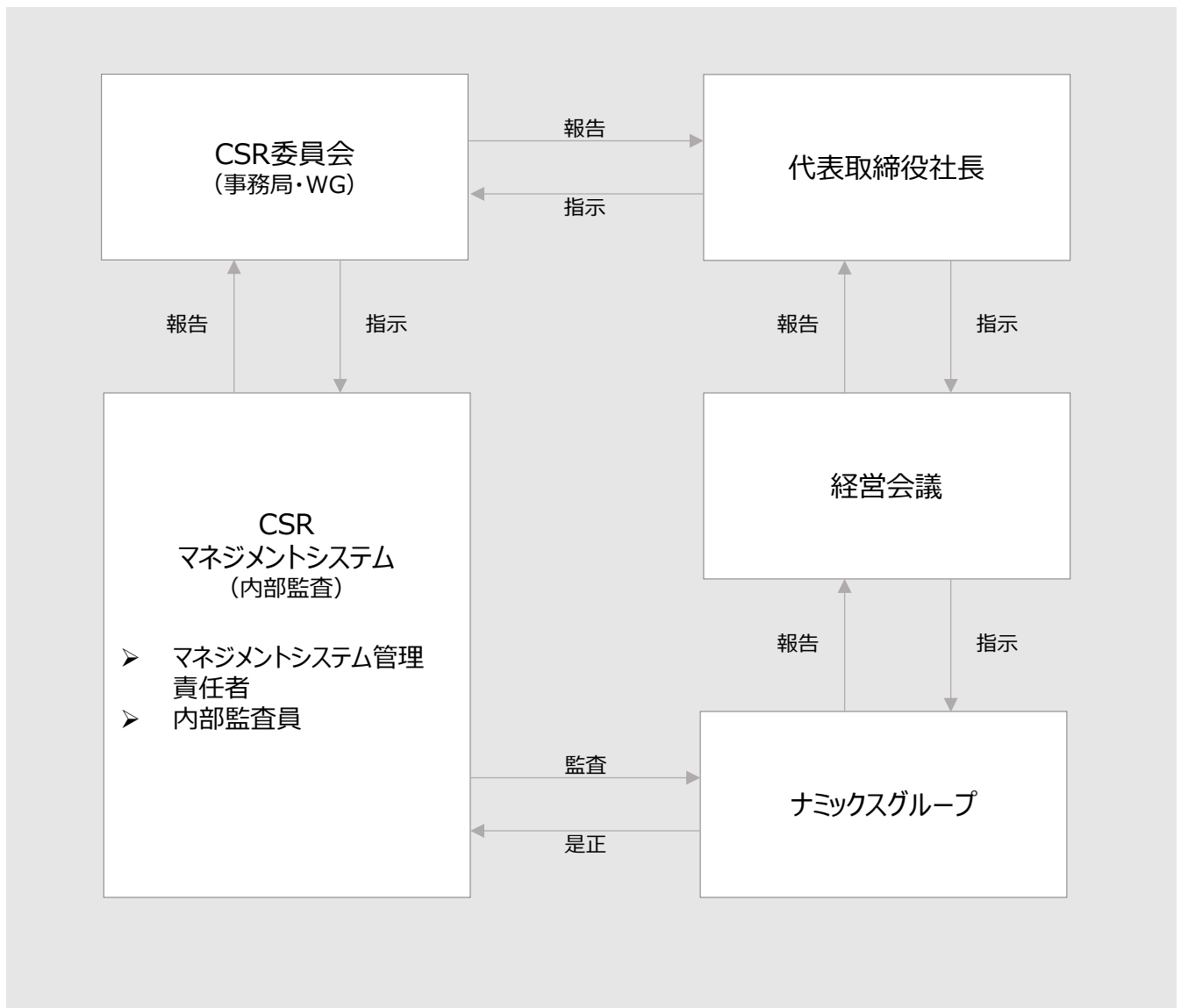
- ① 販売計画の進捗の確認
- ② 各販売会社の組織課題
- ③ 各地域営業戦略
- ④ 各地域で特定した課題

などについて確認・討議を行い、本社統括機能の向上と海外販社の営業能力強化を目的とした活動しております。

7. CSR推進体制

ナミックスグループの社会的責任は企業理念を実践し、ステークホルダーの皆さまに貢献することと考えております。

その実行のためにCSR基本方針と各種社内規程を定め、活動を行っています。企業活動のあらゆる面において、CSR活動を全社的に推進するために、代表取締役社長の統括のもと、CSR委員会を設置する体制を取っております。



8. リスク管理

事業継続計画（BCP）規程

当社では「事業継続計画（BCP）規程」を定めております。「BCP規程」は、大規模地震発生等の自然災害や感染症の発生・拡大等の緊急事態が発生した場合に、お客様への製品供給を含めて早期の業務再開を図ること、および経営資源の被害軽減や、事前対策・復旧対策等を積極的に推進し、計画的に実施することを目的としています。各拠点・各工場が「BCP規程」に基づいて事業継続計画を策定し、災害や事故に備えています。

リスク発生時の体制

- 対策本部長： 社長(不在時は次順位の役員が代行)
- 本部構成員： 経営会議メンバーを基本とし、各部門GMで構成
- 事務局： 経営企画室、総務グループ

事業所分類	役割
被災事業所	出社できた社員で現地災害対策本部を設置し、被害状況の把握、社員の安否確認、支援事業所への連絡を行うとともに、可能な限りの復旧活動を開始する。
第1支援事業所	被災事業所の情報を収集するとともに、災害支援本部を設置し、第2支援事業所と連絡を取りながら支援活動を開始する。
	被災事業所が甚大な被害を受け機能しない場合または本社から要請があった場合は、被災事業所の緊急時活動を代行する。
第2支援事業所	第1支援事業所が活動できない場合や、第1支援事業所又は本社から要請があった場合に支援活動を行う。

9. ナミックスグループの CSR重要課題の特定

ナミックスでは、このたびCSRレポートを編集するにあたり、当社にとって重要なCSR課題の分析を行いました。この課題分析は、毎年見直していく予定です。

課題の特定と優先度評価

CSR委員会が当社の経営理念、中期経営計画の中核課題、当社顧客及び社員等の情報をもとに、重要な課題を抽出特定し、ビジネスおよびステークホルダーの観点の2軸から評価・優先順位付け・抽出。

経営層による承認

役員・執行役員、SGMの出席する経営会議での検討・承認。

当社にとって、特に優先度の高いCSR課題は下記のものとなります。

- 働く人の安全確保
- 持続可能を目指す環境負荷低減への取り組み
- お客様に安心してお選びいただけるバリューチェーン作り
- ダイバーシティ・サステナビリティの推進
- 社会資本への投資

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS SDGsの取り組みについて

1996年、当社は創業50周年を機に「NAMICS」と社名を変更しました。自然と人間の共存共栄、相互の繁栄それを実現するための企業姿勢として感受性、革新性、創造性が不可欠であるとの思いが「NAMICS」という名に込められています。（3ページをご参照ください）

私たちの企業理念である「創造と革新により、すべての人の幸福と自然の繁栄を実現する」ということも世界規模で取り組みが進むSDGs、つまり「持続可能な社会の達成」に他なりません。

NAMICSは今までも、そしてこれからも、永く続くより良い社会を実現するため責任と役割を果たしていきます。



10. 働く人の安全確保

ナミックスはCSR基本方針「従業員の資質が最大限に発揮できる、安全且つ衛生的な職場作りを推進する」のもと、予防管理に重点を置いたさまざまな安全衛生活動を実施しています。

労働安全



安全衛生パトロール

当社では、労働災害・事故等の未然防止を目的として安全衛生パトロールを実施しております。定期的な現場の安全衛生巡視は、安全で快適な職場づくりを進める上で不可欠なものであり、現場の危険性や有害性の早期発見に貢献しております。

指摘事項はリスクアセスメントにて評価し改善活動を実施しております。

安全衛生パトロール指摘事項件数（2022年度末）

単位（件）

項 目	2020年	2021年	2022年
指摘件数	85	94	87
改善件数	85	93	85

危険箇所改善完了報告書

改善箇所：[] 改善内容：[] 確認：[]

改善完了日：[]

改善完了場所：[]

改善完了担当者：[]

改善完了確認者：[]

改善完了報告書

改善箇所：[] 改善内容：[] 確認：[]

改善完了日：[]

改善完了場所：[]

改善完了担当者：[]

改善完了確認者：[]

教育・訓練



社員の安全、健康を守るため、法令で定められている「安全衛生教育」に加えて、総務グループが当社事業に必要な教育・訓練を見直し・実施しています。

教育訓練プログラムと受講者数（国内）

単位（人）

プログラム	2020年	2021年	2022年
防災・消防訓練	393	607	615
防災・防火教育	—	228	200
危険物事故防止研修会	—	1	—
毒劇物保管管理者教育	47	—	—
応急手当普及員教育	—	—	2
合 計	440	836	817

防災訓練 地震初期対応



消火訓練



緊急事態対応訓練



防災・防火教育

労災発生件数

単位（件）

項 目	2020年	2021年	2022年
労災発生件数（国内）	5	4	4

11. 持続可能を目指す 環境負荷低減への取り組み

ナミックスは「人間と自然の共存共栄」を理念においた「相互繁栄」こそが経営の基本であると考えています。そしてその相互繁栄に貢献する企業活動への思いが当社の社名「NAMICS」に込められています。

そのための一つの方策として、環境マネジメントシステムを構築し、2003年11月にISO14001を認証取得し、さまざまな活動を行っています。

環境方針



当社は多くの水辺空間を有し、ゆたかな川の流れが日本海に注ぐ“水の都”新潟市の東部に位置し、周囲を田畑の美りに囲まれています。

創業以来この豊かな自然を守り、SEEDS（S：半導体、E：環境、E：エネルギー、D：デバイス、S：システム）をキーワードにエレクトロニクス製品に関わる絶縁・導電材料の研究開発を積極的に行い、製品供給を通して人々の生活文化の向上に寄与してまいりました。

今後も、会社や自然といったすべての関係において共存共栄を実現し、ともに繁栄することを目指しています。

1. 環境保全活動を経営の最重要課題の一つとして位置づけ、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的改善を通して一層の社会的責務を果たす。
2. 環境方針はすべての社員に周知し、一人ひとりが地球環境問題を自覚し、社会に貢献するよう努める。
3. 環境保全に関する法令を遵守し、当社が同意する業界や関連団体の指針を含む国際的な協調に努め、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、並びに生物多様性及び生態系を保護し、汚染の予防と安全操業・保安防災の向上を図る。
4. 事業活動に係わる環境側面について、次の環境保全活動を主軸として推進する。
 - 4-1. 省エネルギーの推進
 - 4-2. 3Rの推進（発生抑制：Reduce、再使用：Reuse、再資源化：Recycle）
5. 製品の環境負荷低減のために、次の活動を推進する。
 - 5-1. 製品の持つ環境影響を最小限にするよう配慮した研究開発・設計に取り組む。
 - 5-2. 製品に含有する環境負荷化学物質の削減・代替を推進する。
 - 5-3. 製品包装材料の最小限化に取り組む。
 - 5-4. 環境に配慮した資材調達活動を積極的に展開する。
6. 環境影響評価の結果を考慮し環境方針と整合した環境目的を中期計画として策定するとともに、単年度ごとに環境目標を策定し具体的な実施計画を設定し実行する。

ナミックス株式会社
代表取締役社長 小田嶋 壽信

ISO認証取得状況

ISO14001の認証取得状況は以下の通りです。

その他、品質のISO規格であるISO9001:2015、IATF16949:2016も認証取得済みです。

登録事業者	ナミックス株式会社 関連事業所 ・月岡工場 ・ナミックステクノコア
登録範囲	電子部品外装用コーティング剤・ペースト・粉末、半導体封止用樹脂、電子部品・電子回路用及び電池用導電性ペースト、導電性粉末、導電性接着剤、ディスプレイ用導電・絶縁材料、電子部品・電子デバイス用フィルム材料、電子部品等の表示用ペーストの設計・開発及び製造
取得年月日	2003年11月21日
審査登録機関	一般財団法人 日本品質保証機構（JQA）

環境教育



経営理念及び環境方針に対する理念の共有と意識の醸成を図ることを目的に「環境教育・研修」を全社員を対象に実施しています。

また、環境の基本教育や専門教育に加えて、製品に含有する化学物質の管理の重要性についても製品含有化学物質管理ガイドラインに基づいた教育を行っています。



環境保全への取り組み



ナミックスグループでは、廃棄物の減量化、発生した廃棄物の再資源化に取り組んでいます。

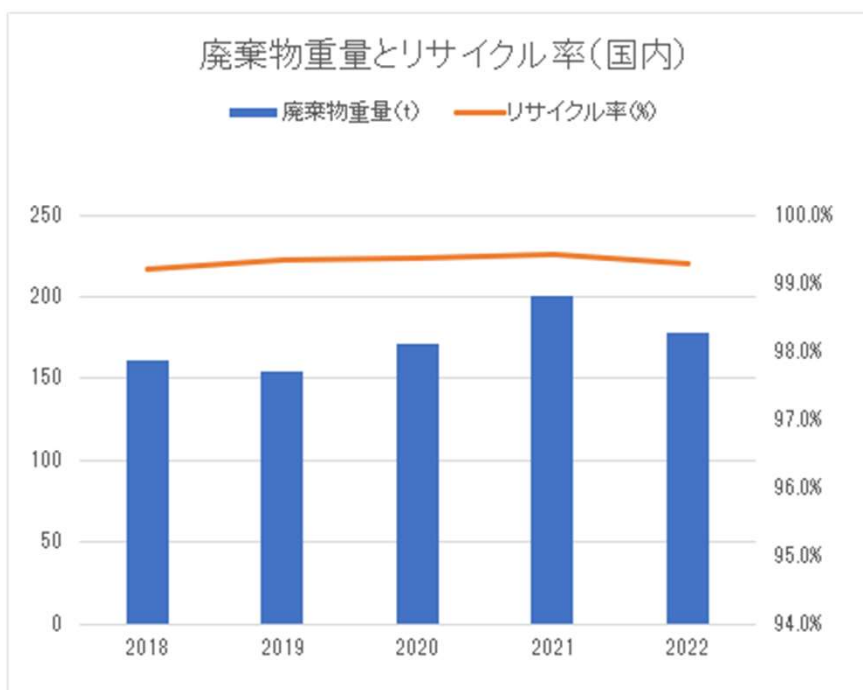
環境負荷の全体像（海外工場を含む）



国内工場の測定値は2022年度の実績、台湾工場の測定値は2022/1～2022/12の実績

※国内工場のみ 台湾工場では全て政府指定の産廃業者で焼却し灰で処理

廃棄物発生抑制と再資源化（国内）



排水汚泥は道路の路盤材としてマテリアルリサイクルされており、廃溶剤は燃料としてサーマルリサイクルされています。

その他、廃棄物をガス化溶融処理した生成物は、工業燃料ガスや金属原料などに再資源化されています。

水質汚染防止への取り組み



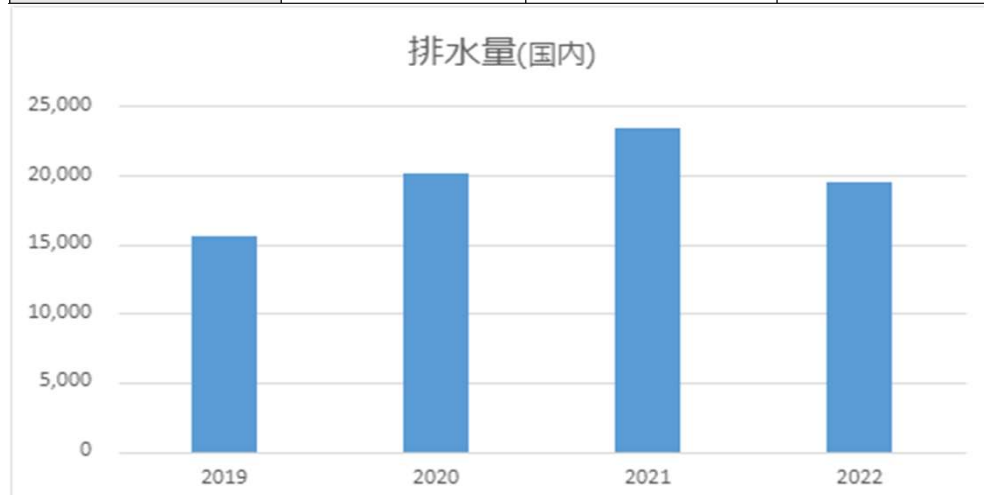
当グループでは、排水処理施設によって工場排水をきれいにし、法規を遵守することにより、公共水域の水質汚濁防止に努めています。

水質汚染防止のため、排水処理施設の日常点検・整備を行い、安定稼動に努めています。また、排水の水質は日々監視し、定期的に全項目の確認も行っています。

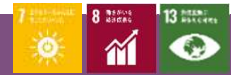


排水処理施設（本社工場）

項目		排水基準 (国内)	国内工場 (2023年2月測定)	
			No.1側溝放流水	No.2側溝放流水
pH		5.8~8.6	7.7	7.6
BOD		<40mg/l	2	6
SS		<50mg/l	3	5
ノルマル ヘキサン 抽出物質	鉱油類	<5mg/l	<1	<1
	動植物性 油脂類	<30mg/l		
フェノール類		<5mg/l	<0.01	<0.01
銅		<3mg/l	<0.01	0.08
亜鉛		<2mg/l	0.09	0.56
溶解性鉄		<10mg/l	0.05	0.14
溶解性マンガン		<10mg/l	<0.02	<0.02
大腸菌群		<3000個/ml	<30	1,100
窒素		<100mg/l	9.3	3.3
クロム		<2mg/l	<0.04	<0.04



地球温暖化防止への取り組み



地球に降りそそぐ太陽エネルギーのうち、約30%は雲などによって反射され、残りの70%が地球に到達します。太陽エネルギーを吸収した地表からは赤外線が放射され、その多くは宇宙空間に放出されますが、一部は大気中の水蒸気や二酸化炭素などによって吸収されて地球を暖めます。地球はこの温室効果作用により地球表面の平均気温は約14℃に保たれ、私たち人を含む動植物の生存に適した環境が保たれています。ところが、今そのバランスが崩れて地球に異変が生じています。

水蒸気を除いて温室効果ガスとして大気中に最も多く存在する気体が二酸化炭素です。二酸化炭素は人為起源の温室効果ガスで、その増加の原因は主に化石燃料の使用です。私たちはこの化石燃料を原料としたエネルギーの合理的な使用に努め、温室効果ガスの排出を抑制しなければなりません。

ナミックスでは年度毎の目標施策に加え、省エネ運用ガイドラインを定め、エネルギーの合理的な使用に努めています。

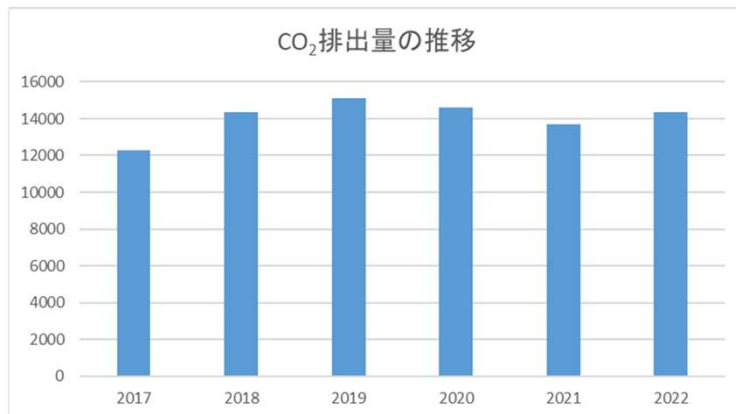
ナミックス省エネ運用ガイドライン

社有車ではハイブリッドカー・EVへの入替えを推進し、2022年度時点で導入率100%となりました。また、2017年5月稼働の生産棟は、随所に環境に配慮した設計を施し「新潟市建築環境総合性能評価制度（CASBEE新潟）」のランクAに認定。2022年7月竣工の管理厚生棟は建物のエネルギー消費量を50%削減する「ZEB Ready」基準をクリアしています。

ナミックス 省エネ運用ガイドライン

目的：燃料、資源の効率的利用と環境負荷低減
対象：下流は内閣府の省エネ推進計画からの適応

項目	目標	対策
オフィスの冷暖房	冷暖房室温 28℃を目途に過度に暖房室温 20℃を目途に過度に	OA機器の管理 離席の際は、パソコンをこまめに
OA機器の管理	機器の購入	省電機器、OA機器等のパソコン等のOA機器を同等以上の効率を有する
作業時の省エネ	業務の合理化	業務の見直し・改善等
エレベーター	運搬効率化	省エネ法に基づく工務
自動販売機	物流の効率化	稼働効率の向上等、
車の利用	資源の有効利用（廃棄物）	資源の有効利用に努める。☆ 分別収集や洗浄
	設備管理	空調、冷暖房設備のポンプ・ファン、ボイラー等熱源/電気設備、照明などの省エネ
	水管理	蛇口はこまめに閉める。エネルギー管理に努める。



ハイブリッドカー



EV



化学物質管理への取り組み



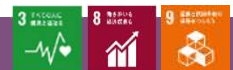
ナミックスの化学物質管理への取り組みは、アーティクルマネジメント推進協議会(JAMP:Joint Article Management Promotion-consortium) が提唱する製品含有化学物質管理ガイドラインに沿った仕組みを構築して運用しています。

また、グリーン調達への取り組みは、2005年に“NAMICS グリーン調達基準書”を制定し、部品材料に含まれる化学物質自主基準を設けて含有する化学物質の検証を、お取引先様のご協力を頂きながら対応しています。

製品に含まれる化学物質の規制は、欧州は元より世界各国でその要求は高まりを続けています。当社はこれらに対応するため、常に最新の情報収集に努め、より確実な管理に向けてその仕組みの維持向上に努めています。



環境に配慮した製品開発



当社をご提供する製品を通して、人と地球に優しくありたいと思っています。

鉛を用いない製品や廃棄物を少なくするロングライフ製品、有害物質を用いないR o H S 対応製品はもちろんのこと、わたしたちは人と地球の声に耳を傾け続けます。



グリーン調達



環境に優しい製品をご提供するために、生産に使用する原材料・容器・包装材、購入製品などの資材調達にあたり、環境負荷の小さい調達品の選定に向けて、グリーン調達基準を制定しています。当社が資材を選定する際は、従来の「品質」・「価格」・「安定供給」に「環境」を加え、総合的に判断しています。

12. お客様に安心してお選びいただける バリューチェーンづくり

ナミックスグループでは、お客様に安心してお選びいただける購買・生産・販売のバリューチェーンの構築を重要課題ととらえています。ナミックスの目指す「お客様からの信頼」を得る活動は、製品のみならずバリューチェーン全体に及ぶものです。

当社は、企業理念である「創造と革新により、すべての人の幸福と自然の繁栄を実現する」をもとに、販売拠点は、お客様のニーズをいち早く汲み取り、グローバルネットワークを活用して情報共有を行い、販売活動を展開しております。

生産活動については、BCPの観点からも海外工場を含む、複数拠点化をしております。

購買活動においても、グローバル共通の「資材調達方針」を定めています。日本はもとより、お取引先様の国の社会規範を遵守するとともに、環境保全などの社会的責任を果たす取り組みを積極的に進め、良好なパートナーシップを築き、信頼関係のもと相互繁栄を目指しています。

ナミックスの資材調達方針



1 最適な資材の調達

品質・価格・安定供給の可能性・企業の信頼性・環境保全・紛争鉱物不使用など合理的且つ明確な基準をもって、取引先選定及び個々の取引を行います。

2 公正な購買活動と最適なコストの追求

原則として複数の取引先からの見積り合わせを行い、常に適正な競争の確保と最適なコストを追求していきます。

3 「グリーン調達」の推進

資源保護、環境保全に配慮した資材調達を推進します。

4 法規等の遵守

お取引先様の国の社会規範を遵守します。

5 情報の機密保持

購買取引を通じて知り得たお取引様の機密を保持します。

6 人権・労働・安全衛生への配慮

お取引先様の事業において基本的人権を尊重し、労働安全衛生の確保に取り組みます。

13. ダイバーシティ・サステナビリティの推進

人権尊重、法令遵守、ダイバーシティの推進



ナミックスグループは国際労働機関(ILO)による国際労働基準および各国の労働法規に則り、社員の人権を尊重するとともに法令遵守を徹底しています。

人権側面及び人間性向上に関する研修

人権尊重の取り組みの一環として、当社では人権側面及び人間性向上に関する研修を制度化しており、受講の状況は下記のとおりです。

人権側面及び人間性向上に関する研修の総時間数と受講者数の比率

区分	項目	2020	2021	2022	備考
総時間数	総受講者数(人)	138	—	276	※2021年度は感染症対策で全社研修は中止のため、対象なし。
	総時間数/全社(時間)	1,336	—	3,395	
受講比率	全社員数(人)	676	—	710	
	受講比率(%)	20%	—	39%	
参考指標	受講満足度(点)	4.3	—	4.5	アンケート5点満点

従業員のダイバーシティ

海外に販売拠点・生産拠点を有し海外売上高が約8割である当グループは、海外グループ会社での現地採用に加え、日本における外国人の採用にも取り組んでいます。

当社グループの従業員構成(2022年度末) (人)

従業員数	国内拠点		台湾工場		その他海外拠点		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
社員	373	92	45	32	62	41	480	165
契約社員	97	76	0	0	0	0	97	76
パート	1	19	0	0	0	0	1	19
アルバイト	0	0	0	0	0	0	0	0
派遣社員	10	42	0	0	0	0	10	42
計	481	229	45	32	62	41	588	302
比率	68%	32%	58%	42%	60%	40%	66%	34%
合計	710		77		103		890	

Topics 01



「カーボンニュートラル」実現に向けた取り組み Vol. 1

～ ZEB Ready (ゼブレディ) に準拠した新しい本社屋について ～

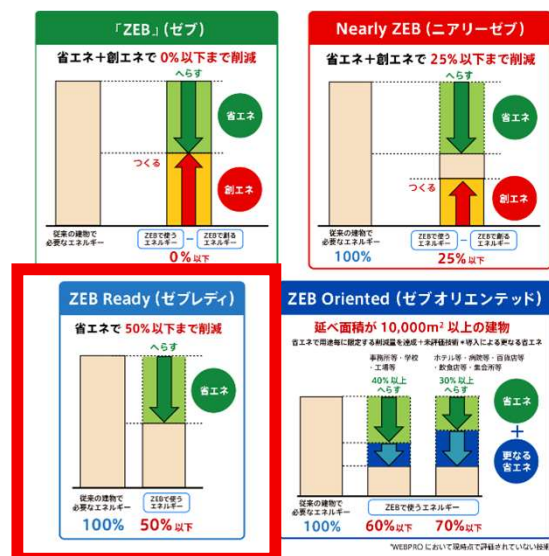
2022年7月の管理厚生棟竣工により約10年に渡る本社再編プロジェクトがようやく終結いたしました。

新しい本社屋は先進技術を随所に取り入れ、建物のエネルギー消費量50%削減を実現する「ZEB Ready (ゼブレディ)」基準をクリアするものです。今回は当社の新社屋をご紹介します。

「ZEB」(Net Zero Energy Building)とは

消費エネルギーの削減「省エネ」と必要エネルギーを創る「創エネ」によりエネルギー消費の収支ゼロを目指す建物。ZEBはゼロエネルギーの達成状況に応じて、以下の4段階が定義されています。

- ① **ZEB (ゼブ)**
 - ・省エネ+創エネで0%以下まで削減
- ② **Nearly ZEB (ニアリーゼブ)**
 - ・省エネ+創エネで25%以下まで削減
- ③ **ZEB Ready (ゼブレディ) 【下図左下】**
 - ・省エネで50%以下まで削減
- ④ **ZEB Oriented (ゼブオリエンテッド)**
 - ・省エネ+更なる省エネで60～70%削減



新しい本社屋について (写真は2Fメインオフィス)



昼光センサーによるブラインドの自動制御、光ダクトによる自然光の効果的な利用による日中の照明負担の低減、ダブルスキーンカーテンウォールの採用によるスキーン内部の自然換気、日射による空調負担の低減をはかるなど、竣工時ZEB-Ready(エネルギー消費量50%減)認証を取得済みで、将来的にNearly-ZEB認証(同75%減)への対応も可能な設計となっています。

地域社会への貢献

ナミックスでは新本社屋竣工を機に、新潟市と「津波時における津波避難ビルとしての使用に関する協定」を締結いたしました。

津波避難ビルは、耐震安全性や堅牢な建物構造、高さ3階以上など一定の要件を満たす建物が指定を受けることができるものです。

ナミックス株式会社と津波避難ビルの協定を締結

ナミックス株式会社と「津波時における津波避難ビルとしての使用に関する協定」を締結しました。津波避難ビルは津波の危険性がある場合に限り、一時緊急的に避難することができる施設です。

津波は確認してから避難では間に合いません。津波注意報などが発表されたときは、高台や津波避難ビルなど、より高く安全な場所を目指して避難しましょう。

※ハザードマップや避難場所の詳細は市ホームページで確認できます

ナミックス株式会社(湯川3993番地)

新潟市「北区役所だより」2023年6月18日号より

イラスト：環境省HP「ZEB PORTAL」より

海外グループ会社への人事・労務監査



人権尊重・法令遵守の取り組みの一環として、2014年から、海外のグループ会社に対しても本社総務・人事グループが海外各拠点の人事労務面の仕組みやルールを整備、グループ企業としての人事労務の維持管理を目的に、人事・労務監査を実施しています。

毎年、それぞれの国の雇用情勢を踏まえ、各国の労働法規に準拠した人事労務関連規定類の策定およびメンテナンス、現地での運用状況の監査とフォローを実施していく計画です。

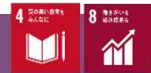
人事・労務監査は人権尊重・法令遵守の側面に加え、ナミックスグループのダイバーシティ推進および海外グループ会社へのガバナンス向上にも貢献しています。

取り組み事例	海外拠点の自立的な業務運営へ向けての本社からの人事労務サポート
根拠・意図	・ 海外各拠点の人事労務面の仕組みやルールの整備 ・ グループ企業としての人事労務の維持管理
取り組み内容	・ R B A 行動規範などグローバルな C S R 基準及び各国の労働法規に準拠した人事労務関連規定類の策定及びメンテナンス ・ 現地での運用状況の監査とフォロー

報告相談窓口(ホットライン)の常設

当社は人権問題も含めた職場で発生する幅広い問題に対して、問題の把握と解決、適切なアドバイスを行うため、人事グループと顧問弁護士を報告相談窓口としてホットラインを設けております。

人財育成



「ダイバーシティ」と「サステナブル」の考え方が世の中への浸透するとともに、人財育成のニーズも変わりつつあります。こうした環境変化を踏まえ、ナミックスではこれまで一般的に求められてきた個人としてのスキルやマインドを中心とした人財開発に加え、社員1人ひとりのエンゲージメント、それを育む組織開発とより良い組織風土の構築に育成の焦点を当てています。

従業員の将来キャリアを支援することを目的に、「健康・幸福・満足」な働き方を共有することをテーマにした「Well-being 研修会」も、その一環です。

2022年度の研修会には各部門から38名が参加し、ポジティブ心理学をベースにした生き甲斐につながる強みの再発見から、セルフエスティーム（自己肯定感）、レジリエンス、そしてWell-beingを実現するキャリア開発をシリーズ形式で学習し、他部門のメンバーと情報交換やグループ実習を行いながら、これからの仕事を通しての自己実現の方向性を構築しました。

当社の育成方針は、「良い会社の実現と従業員の豊かな人生づくり」を基本に掲げています。これに基づき、全社教育体系は、職位や役割に幅広く対応する階層別研修、専門知識や専門技術を習得する部門別研修、グローバルセンスを磨く国際化プログラムなどが、每期、計画的に運用され、従業員にダイバーシティで、サステナブルな成長機会を提供しています。

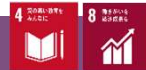


Well-being 研修会



国際化プログラムの外国語研修

人財の定着



専門的な商材を扱う当社では、人財の教育に加え、その定着も重要な課題です。

新規雇用者 (人)

区分	2020年度	2021年度	2022年度
社員	20	22	21
契約社員	33	22	17
パート	1	1	1
アルバイト	2	0	0
合計	56	45	39

離職者 (人)

区分	2020年度	2021年度	2022年度
社員	8	6	6
契約社員	12	9	15
パート	1	1	0
アルバイト	0	0	0
合計	21	16	21

事業所内保育園の運営



人財定着の取り組みの一環として2016年に開園した「えびがせ保育園アミック（新潟市東区海老ヶ瀬）」は、開園時4名だった社員の子息は2022年度は53名となり、今後も順次入園する見込みです。

また、定員の一部を「地域枠」として地域のお子さんを受け入れることで地域社会にも貢献しています。2022年度末時点での総園児数は104名となっています。

これを始めとする仕事と子育ての両立支援の取り組みにより2022年3月に厚生労働省より「くるみん認定」を受けました。



出産・育児休業後の復職率と定着率（国内・男女別） ※派遣社員は除く

区分	2020年度		2021年度		2022年度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
復職率	100%	100%	100%	100%	100%	100%
定着率	100%	100%	100%	100%	100%	100%

※定着率＝年度内復職者の内の在職者数／年度内復職者の総数

【参考資料】 育児休業取得率（国内）

区分	2020年度		2021年度		2022年度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
育児休業取得者	5	9	4	8	10	10
育児休業取得対象者	22	9	18	8	21	10
育児休業取得率	22.7%	100%	22.2%	100%	47.6%	100%

Topics 02



「カーボンニュートラル」実現に向けた取り組み Vol.2

～ 第四北越銀行様とのサステナビリティ・リンク・ローン融資枠の締結 ～

ナミックスは地球温暖化防止への取り組みを自社グループの事業継続にとって大きな経営課題であると捉えています。

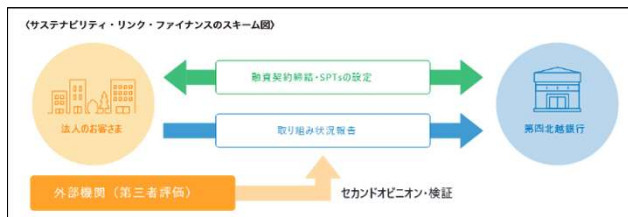
2022年10月、当社はカーボンニュートラルに向けた取り組みのさらなる強化を図るべく、株式会社第四北越銀行様とサステナビリティ・リンク・ローン（SLL）のコミットメントライン（融資枠）契約を締結いたしました。今回はSLLの概要についてご紹介します。

「サステナビリティ・リンク・ローン」とは

サステナビリティ・リンク・ローン（以下：SLL）とは、企業が設定したSDGsやESGに関連する目標（STPs:サステナビリティパフォーマンスターゲット）の達成度に応じて適用金利などが変動する融資商品のことです。

企業のSTPsの妥当性やSDGsやESGの取り組み状況の評価については、外部機関による客観的な評価を受けるスキームとなっています。

<仕組み図>



イラスト：第四北越銀行様HPより

SLLを利用する企業側のメリット

- ① 企業内におけるサステナビリティ戦略やリスクマネジメント、ガバナンスの体制整備につながる。
- ② 環境面における持続可能な経済活動に関心がある企業であることを対外的にアピールでき企業イメージの向上につながる。
- ③ 設定したチャレンジ目標に積極的に取り組み、成果を上げることで、金利引き下げなど融資条件面でメリットを享受することができる。

SLLの国内での利用状況

ESG投資の普及拡大を背景に、我が国においてもサステナビリティ・リンク・ローンの普及が進んでいます。

< 国内におけるSLL組成額・件数の推移 >
【2023.9.4 時点】



温暖化ガス排出量 15%削減を目標

当社は、STPsとして、温暖化ガス排出量を2024年3月期に2019年比15%削減を掲げました。また、融資枠70億円については今後の事業戦略資金として活用するほか、社屋の省エネ・創エネ設備の新たな導入や近年多発する自然災害や感染症の拡大などの不測の事態に備え、弾力的な資金調達が可能とすることを目的としています。

当社は、今後もカーボンニュートラルに向けた施策を積極的に推進し、地域のみなさまと共に持続可能な社会の実現に取り組んで参ります。



写真：2022年10月11日 SLL成約式の様子（於、当社本社）
左：第四北越銀行 田中常務取締役様
右：当社 小田嶋代表取締役社長

14. 社会資本への投資

地域社会への貢献

ナミックスは、創業の地である新潟をはじめとして、各拠点に於いて地域社会との共存共栄を目指し、様々な取り組みを推進しています。

地域：近隣清掃活動



「構内および周辺環境の美化活動」の一環として、本社、ナミックステクノコア、月岡工場の3拠点の清掃活動「クリーン作戦」を実施しています。

実際に清掃を行ってみると、草木に隠れたものなど、多くのゴミを回収することが出来、環境美化活動の大切さを参加者一同が改めて認識しています。

今後も、地域の一員として綺麗な街づくり・環境づくりに貢献する活動を推進して参ります。

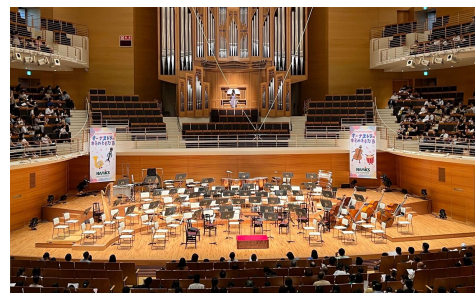


文化：「オーケストラはキミのともだち」への協賛



新潟市が主催する、子どものための芸術文化体験事業「オーケストラはキミのともだち」の協賛を行っています。

次代を担う子ども達のために、音楽の楽しさや文化芸術の素晴らしさの体験を通じて、豊かな感性や創造力を育む機会の創出を応援しています。



医療：米国での救急医療活動への貢献



国土が広大な米国での空路を使った医療搬送、その中でも機動力の高いドクターヘリはなくてはならない存在となっています。

当社では、米国でドクターヘリ5機を所有し、その機体を航空医療搬送事業を展開している「REACH社」へ貸出しを行い、活用して頂いています。

当社が所有する5機は、カリフォルニア州やオレゴン州を中心に、米国西海岸エリアの命を守る医療現場を支えています。



スポーツ振興：アルビレックスのサポート



新潟のスポーツクラブ、アルビレックスへの応援を通じて、スポーツ振興に力を注いでいます。

＜サッカー＞

アルビレックス新潟
ユニフォームスポンサー
レディースオフィシャルスポンサー



＜野球＞

新潟アルビレックス・ベースボールクラブ
オフィシャルスポンサー



＜バスケットボール＞

新潟アルビレックスB B
オフィシャルスポンサー



＜バスケットボール＞

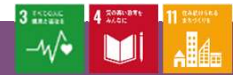
新潟アルビレックスB Bラビッツ
オフィシャルスポンサー



スポーツを通じながら、次世代を担う子どもたちの育成として、子どもたちに夢や目標を持つ素晴らしさ、努力の大切さ、フェアプレー精神を伝える地域の青少年育成活動に力を注いでおります。



社内の社会資本への投資



創造性ある商品や高い生産性は、個人の力だけでなく、組織力によって達成されるものだとナミックスでは考えています。そのため、創業時から、社員食堂を始め、組織力・チームワークの根底となるコミュニケーション促進のための施策を打って参りました。

サークル活動補助制度

社内の社会資本への投資の一環として、当社には社内サークル活動補助制度があり、多くの社員が社内サークルに参加しています。（前年に引き続き2022年度はコロナ禍の影響で活動休止と致しました）

社内サークル制度参加者		単位（数・人）		
項 目	2019年	2020年	2021年	2022年
サークル数	14	—	—	—
登録人数（人）	221	—	—	—

青少年育成



科学技術に立脚する製品を扱う当社は、未来の科学技術の発展を担う青少年の育成を支援しています。

科学の祭典への出展・協賛

子供たちの科学技術への興味を深めてもらうために、当社は毎年「青少年のための科学の祭典」に出展、協賛しています。

数多くの子供たちに実験を通じて液体がゼリー状に変わる事、プラスチック板を加熱すると縮んで小さく固まっていく変化や紫外線を当てると液体が固まることを体験してもらいました。体験した子どもたちは興味津々でした。

今後も、このような活動を通して、科学のおもしろさ、不思議さを感じてもらい、次世代の創造性豊かな子どもたちの育成活動に力を注いで参ります。



（前年に引き続き2022年度はコロナ禍の影響でイベント自体が中止となりました）



対象範囲：ナミックス株式会社及び国内・海外の全事業所

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日

発行：2023年 9月

お問い合わせ先

ナミックス株式会社 総務グループ CSR担当

〒950-3131 新潟市北区濁川3993番地

TEL 025-258-5577(代) FAX 025-258-5511

E-mail: soumu_1@namics.co.jp